

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
技術標準化と経営戦略特論 Technology Standardization and Management Strategy		Z 144	1 単位	4 学期	学内・学外
科目分野		課程領域			
知的財産戦略		知的財産マネジメント専門科目 (～2019年度生はイノベーションマネジメント共通科目)			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
江藤 学	-	面談は講義日の講義前後に可能。 メールでの質問、相談も可。			

関連している科目(履修推奨科目)	
知的財産戦略実務特論 1、2	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

標準化活動をビジネスと結び付けるためには、標準化活動を知的財産管理と一体的に考えたうえで、戦略的に行う必要がある。標準化活動を公的な活動と位置付け、ボランティア的に参加しては利益に結び付かないし、多くの場合競争力を失うことになる。さらに標準化活動は知的財産管理と異なり、担当者個人や企業一社ではコントロールできず、予定通りに進まないことを前提とした周到な準備と活動が必要で、その状況により企業における事業戦略をフレキシブルに変更していかなければならない。標準を作ること、作らないこと、他社の標準を使うこと、使わせないこと、全てを自社のビジネスモデルに一致させて正しいタイミングで実施しなければ、将来にわたって禍根を残すことになるのが標準化活動といえる。本講義では、このような標準化のビジネス活用の本質を知り、それを企業経営に利用できる力を獲得する。

具体的には、標準化とビジネスとの関係を切り口に様々な事例を見て、その効果の本質を探っていく。まず標準化のビジネス効果を理解し、標準化と特許の関係、この使い分けの基本を理解した上で、標準化と競争法との関係、経営戦略における標準化の役割、イノベーションにおける標準の使い分け、環境や安全規制とそこにおける標準の価値、認証のビジネス活用などについて多くの事例を基に、その本質について議論する。

到達(修得)目標

企業等において知的財産のオープンとクローズの使い分け戦略を立案し、標準化活動部隊のマネジメント力・人材育成力を持ち、経営陣に対し標準化の重要性を自社の事例をもって説明できる能力を獲得することを目標とする。

受講対象者

企業における事業戦略立案担当、知財戦略立案担当を中心に、ビジネスや標準化活動に携わる幅広い層にとって興味ある内容とする。技術マネジメントとビジネスの関係に興味がある方に向いている。

履修上の注意事項やアドバイス

本講義は、講義として事例を示し、その後ディスカッションを行う形で進める。
 なお、講義内容や事例の選定は受講者の興味に応じ、一部変更する可能性がある。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務	○	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 最終講義時間に各自の標準化戦略を発表して頂き、それで理解度を判定する。	事例を中心に講義し、各自が議論を戦わせることで、お互いの理解を深める。	最終回までに、各自がパワーポイントなどのプレゼンテーションツールで2～3ページのレポートを作成する。

評価の方法		
(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席・受講態度	30%	毎回、事務室より出席簿を準備する。
レジメ作成	40%	ディスカッションに参加し、要点をついた質問や意見を述べたか。
ディスカッションへの参加	30%	最終講義で発表するレポート(レジメ)が、それ単体で分かりやすく、独自性を有しているか。
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	特に指定しない	講義用には毎回オリジナルの パワーポイント資料を準備する。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	江藤学(編集委員長)(2016)『標準化教本』日本規格協会 藤野仁三、江藤学(編著) (2009)『標準化ビジネス』白桃書房 新宅純次郎、江藤学(編著) (2008)『コンセンサス標準戦略』日本経済新聞社	標準化の基礎知識が無い場合は『標準化教本』を読んでおくことを勧める。
参考URL		
適宜紹介予定		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	標準化とは何か ビジネスの観点から見た「標準化」とは、どのような意味をもつか。その活用方法の基本的考え方、手順等について講義する。(自転車、光ディスク、AKB48、初音ミクなどから選択して講義する)		江藤	180分
	製品標準のビジネス 標準化のうち、最も理解しやすい製品標準の事例を取り上げ、標準化のビジネス効果をサプライチェーンの中で理解する。(DVD、FAX、メモ리카ード、半導体、光コネクタ、携帯電話、パソコン、シャンプー容器などから選択して講義する)			
3.4	試験方法標準のビジネス活用 標準化による差別化を実現する試験方法の標準化について、その活用の方法、リスク、理想の形などを整理し、試験方法標準のビジネス活用について理解する(光触媒、冷蔵庫、エアコン、液晶テレビなどの事例を講義する)		江藤	180分
	知的財産略と標準化 特許と標準の関係について、SEP(標準必須特許)問題の経緯や裁判事例、パテントプールビジネスの実態などについて講義する。(DELL、JPEG、MPEG、DVD、携帯電話などから選択して講義する)			
5.6	適合性評価・認証システムのビジネス活用 適合性評価システムの仕組みと、それを利用した認証ビジネスによるブランド化などについて、標準化との関係を示しつつ分析する。(ISO-9000、携帯電話、抗菌プラスチック、自転車、信号バス、テフロンなどから選択して講義する。)		江藤	180分
	標準化機関の使い分け戦略 様々な標準化機関の性格や機能を理解し、標準化機関を自らのビジネスに合う形で使い分ける考え方を学ぶ。(ICカード、セキュリティマネジメント規格などを事例として紹介する)			
7.8	イノベーションと標準化 1～6回の講義の総まとめとして、イノベーションと標準化の関係について、特に標準化におけるタイミングの重要性を様々な事例を見ることで理解し、標準化によるイノベーションの実現方法について学ぶ。また、標準化に負けた場合の復活戦略も議論する。 8限目は受講生の発表の時間とする。		江藤	180分
	イベント			

※ 講義日程は、学事ポータルでの講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
 ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。